



ヤツデ（八手）

冬の寒さにも負けず繁茂する丈夫なヤツデは、日本特産で、日陰の玄関先など庭木として広く栽植されるほか、暖地の山林にも自生しています。

ヤツデは、大きな葉が深く切れ込んで、それが手のように見えるということが語源となっていますが、実際には八つに裂けることは稀で、7裂、9裂などの奇数分裂をすることが多いようです。

晩秋から冬にかけて、茎の先に伸びた小枝に白い小花を球状につけた様子は、庶民的ではありますが、^凛しさを感じさせます。その後、白い実となったまま年を越して、翌年の春に黒く熟します。

「窓の外に白き八手の花咲きて

こころ寂しき冬は来にけり」

島木 赤彦